

膵管癌における幹細胞関連因子の発現と臨床病理学的検討

2013年1月から2017年12月まで日本医科大学付属病院消化器外科で膵癌手術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「膵管癌における幹細胞関連因子の発現と臨床病理学的検討」という研究を倫理委員会の承認並びに施設長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、他の研究機関との共同研究として、研究実施許可日～2025年9月30日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、膵臓癌のために手術治療を受けられた患者さんの幹細胞関連因子の発現と臨床病理学的検討を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。本調査で用いた情報は、共同研究機関へ提供させていただきます。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：膵管癌における幹細胞関連因子の発現と臨床病理学的検討

研究期間：研究実施許可日～2025年9月30日

当院における研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 講師 松下 晃

(2) 研究の意義、目的について

癌幹細胞は癌組織内に存在する少数の自己複製能と多分化能を持つ癌細胞で、浸潤能が高く、高い薬剤排泄能により抗癌剤に対して耐性を示すことから、癌の転移と再発に重要な役割を果たしています。すなわち、膵癌の予後が極めて悪いことに癌幹細胞が関与していると考えられています。今回の研究では、切除標本より作製したプレパラートをを用いてヒト膵管癌組織における幹細胞関連因子の発現を免疫組織化学等により検討し、更にそれらの発現と臨床病理学的因子との関係、予後との関係を明らかにすることを目的といたします。これらより、幹細胞関連因子を標的とした新たな治療方法の開発への基礎実験となることが期待されます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類および外部機関への提供について）

2013年1月1日より2017年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて膵癌のため外科手術を受けられた患者さんについて、以下の試料・情報を収集、使用します。

試料：手術時に切除した組織（膵臓）

情報：年齢、性別、血圧値、肝機能、凝固系指標、治療歴、副作用歴、等

手術時に切除した組織の試料は、共同研究機関である東京都健康長寿医療センター研究所大学病院へ提供されます。これらの試料・情報は、セキュリティ管理されたウェブ上に入力を行い、研究グループが管理するサーバーへ電子的に収集されます。各研究機関から収集された試料・情報を用いて、研究グループが統計的に解析し、幹細胞関連因子の発現と予後や臨床病気についての検討を行います。

(4) 共同研究機関（試料・情報を利用する者の範囲および試料・情報の管理について責任を有する者）

共同研究機関：東京都健康長寿医療センター研究所

研究全体の責任者：石渡 俊行 研究部長

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(7) 本学における問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 講師 松下 晃

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：6752
メールアドレス：akira-matsushita@nms.ac.jp